

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 7月号 (NO51)

2014年7月10日 (木) 発行 (毎月10日)

【農暦】異常な天候に翻弄されて！

○今日10日、大型台風8号の影響などで雨が降ったり止んだりしている。明日の朝には関東に来るとの予報である。強大に発達した台風による宮古、沖縄の暴風雨の被害のニュースが続いている。台風に刺激された寒冷前線の影響で北日本までの広域で豪雨になっている。今も、長野の南木曾で土石流に家が跡形もなく流され、中学生男子死亡のニュースが流れている。

○5月の後半は雨なしで土煙が出る程に乾燥していた。6月5日以降は断続的に大雨が降り続いている。時期外れ台風が、今来ている。それも特大の台風である。こんな天候では、チョットしたタイミングを活かし農作業をしないと時期を逸してしまう。常住していないからタイミングを逸する事が多くなる。言い訳になってしまうが、最近では気力と体力の衰えが加わり、農作業のズレズレが常態化してしまう。天候に合わせて農作業はするものである。異常な天候は別にしても理由にはいけないのかも知れない。

○2-3年位前からは、諦める事と能力に合わせての作付けを、心掛けているが、失敗が多い。原因は、気が多い事である。それに、能力を期待値までいれ過大評価してしまうからである。判っていても止められない。止めたら再び始められないとの思いが働いているかも知れない。

○毎回になるので書くのが嫌になるが、この異常気象は凄^{すご}過ぎると思う。通年、異常気象が続く。最早、異常が通常になっている。大型台風が発生した海域の海水温が1℃上昇していると言う。当然ながら温暖化対策も含め



＜ブルーベリー＞まだ採れそう。8日NHKあさイチで健康食材として紹介していた。9日撮影

てだが、この常態化している異常気象に、社会インフラ、農業等々の見直しなど抜本対策を考えなくてはならないと思うのだが、大袈裟過ぎるだろうか。私は異常気象が怖い。

○黒豆などの播種を6月下旬に予定していたが、耕起、マルチ掛け、播種の作業を断続的に続く雨に翻弄され続け出来ず、やっと耕起まで終わったが、今回は強行する積りでいた。だが、台風の大雨の予報で諦めた。去年は乾燥していて覆土を厚くし過ぎで？発芽しないため2度目の播種をしていたので、まだ時期的には大丈夫と、来週やる事にした。そう決

めた矢先に、痛風が発症である。播種が心配になる。

【楽農】ブルーベリーの収穫、出荷

<ハウス> ; トマト、シシトウなどの除草、芽カキ

<畑 A> ; ブルーベリーの収穫、出荷。

菊、ネギ、トマトの除草。

・全般の草払い機で除草。

<畑 B> ; トラクターで耕起2度目（播種の準備）、

ジャガイモの収穫、里芋、トマトなど除草。

・畔など草払い機で除草。

*雨続きで？人参とキヌアだけは発芽しなかった。

*最近では、来客者に、この畑は失敗例として見て下さい
と言っている。6日に来られたSさんグループは大きく繁茂した草を見て気の毒に思われたのかサンダル履きで草取りをしてくれた。ネギとトマトの畝が畑の姿を取り戻した。多謝多謝である。



<ジャガイモ> 1日に収穫した北あかり。
芽カキが遅く？小ぶりが多。8日撮影

【楽市】イベント交流・直売など

○その他；共生の会（12日）、山野草の会で浄土平へ散策*（14日）に参加。

*高山植物の散策中に斉藤茂吉の歌碑を発見。
“五日ふりし雨はるるらし 山腹の吾妻のさざり 天のぼりみゆ （大正五年）”とあった。
吾妻山は古く平安時代から「思いの山」「恋の山」として和歌の対象となっていたという。筑波山は恋の歌が多いのは知っていたが吾妻山のことには知らなかった。高山植物は少なかった。



<吾妻山から浄土平の全景と歌碑>風が強く小雨の中の散策であった。14日撮影

【つぶやき=Tweet】日本は古来より男女愛におおらかだった！

○最近、買い物や外食、散歩などの場で高齢者のカップルを見かける。チョット前までは祖母、母、子の連れがほとんどであった。いよいよ高齢化社会化と視覚的にも実感させられる。独居老人が多いと言われるが、寂しい老人は多くなっているのかも知れない。お年寄りから、よく声を掛けられる。寂しそうな顔をしているからと言われてしまうが、半分は当たっている。友人知人の衰えて行く姿には辛いものがある。時には寂しい気分になる。
○そんな高齢者から“もう”が付く下ネタ話が出る。大岡越前守の灰になるまでの火箸の話もあるが、歳をとると助平になるのか、下ネタ話をよく聞く。色っぽい話はいいが、“も

う”が付く話は頂けない。黄昏の身が言わせるだろう。マキノ（津川）雅彦が監督した「寝ずの番」の臨終前の願いで、もう一度見たい位の話がいい。笑える。私の HP の映画鑑賞のひとつと短評の2006年には「映画を観てこんなに笑ったのは初めてでは？と思う。臨終間近の師匠が”外”が見たいを”そそ”が見たいと聞き間違えるところから始まる。下ネタ満載である。最近下ネタが流行らないようであるが下ネタには人間味があると私は思う。きれいごとの裏には冷たさと醜さが同居している。”美しい国”を作ろうなどと言い出した人があるが少し怖い。おおらかな世の中になって欲しいと願いたい。この映画で少しおおらかな気分になれた。観ることを薦めたい作品である。」と書かれていた。“そそ”を見せる役になった木村佳乃は実感を出すために下着をとったと云う撮影現場の話がある。チョットだけ刺激があって、にんまりして陽気なのがいいですね。



<笹目宗兵衛商店（松緑）・酒蔵 JAZZ コンサート
>JAZZ を楽しんだ。8月もある。5日撮影

○前回、事実婚の事を書いたが、土楽たよりに読んで、こんなメール来た。“事実婚はフランスでは半分（一緒にいるが結婚はしていない。）以上です。オランダ首相を見てもわかるし昔の話ですがミッテランが誰かの葬式に2号さんと一緒に出ていて記者から何か言われたら答えが それで と、、、で国民は納得、、、日本では考えられないでしょう。もともと日本では公の場に2号は連れて行かないでしょう。（これが日本）” フランスの事実婚法（ボックス法）には貞操義務がない、不倫と云う言葉もないのかも知れない。

○紫式部、清少納言の時代は通い婚で母系社会であった。女性の地位が低かったと云うが愛恋いは盛んで文学的評価が世界的にも高い。日本は古来より男女愛におおらかだった様である。明治維新で西洋化を進める余りに日本の文化が否定的に扱われたようである。大正ロマンが軍国主義に潰された以降は大らかな男女愛の市民権は得られないままの様に思える。古事記の時代でも、万葉の時代でも男女愛は燦燦（かがやく）としていた国である。民話にも祭りも男女愛に係わるものが多い。吉行淳之介の浦島太郎の玉手箱の話は面白かった。下ネタ満載の本も決していやらしくはない。児童ポルノの規制の話があるが規制ではよい社会なるとは思わない。同列にはならないが特定秘密保護法の事もある。副作用の方が怖い。

【後記】またしても痛風発症、ビール時期なのに、摂生しなくては！夏間近。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】

発行者；Kogure農場・小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.ne.jp

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>